

第10回北海道教育推進会議（7月14日開催）における委員意見について

資料1-1

No.	関連項目	委員名	会議 or 書面	委員意見	担当課回答
1	- 全体	中村 委員	会議	<p>・大野会長の意見にもありますとおり、今回一番、大きな影響はコロナの影響が甚大だったと思う。そうした意見を反映してまとめられたということですが、教育庁内の打ち合わせの過程で、<u>どのような評価なり受け止め方があったのか、ご紹介いただきたい。</u></p> <p>・実績評価のところは、<u>悩ましかったと思うんですけど、そのあたりについて、特徴的なところがあればご紹介いただきたい。</u></p>	<p>・新型コロナの影響による今後の取組欄には記載はないが、例えば、義務教育における確かな学力の育成については、評価結果が良くなく、その要因がコロナの影響なのか、又はコロナ以外の影響なのかは判断が困難。</p> <p>・また、社会教育や、地域との連携などの関連項目では、コロナ禍における物理的な活動の制約により、取組が困難な面もあったが、オンラインで代替できるものもあり、今後どう対応するのか検討することが必要。</p> <p>・点検評価報告書は単年度評価であることから、コロナ禍を受けての取組の検証は別途、検討する考え。</p>
2	- 全体	中村 委員	会議	<p>・資料3の総括表の<u>前年比で見ると、評価が下回った黒三角が多いと思うが、全体的な総括として、新年度は新しい計画なので、（評価対象となる施策等も）変わらと思うが、この部分は、通常ペースに復元すると見ているのか、今後も引きずっていきと考えているのか、そのあたりはどうか。</u></p>	<p>・資料3の下段の表は、前計画の5年間の評価結果を一覧で記載しており、施策項目にもよるが、年度が進むごとに評価が下がる傾向。理由としては、コロナ禍の影響も考えられるが、前計画は、最終目標を100%に設定している指標も多く、年度が進むにつれて進捗率が鈍化し、結果的に目標が未達成となったものもあった。</p> <p>・今後は、コロナ禍を受けての対応の強化とともに、より適切な評価方法を検討する方向で対応する。</p>
3	- 全体	森田 (聖) 委員	会議	<p>・学校現場としては、<u>コロナの影響をどう考えるのかというところが、非常に難しいと思って聞いてた。</u>例えば、確かに、国際理解教育の充実という部分については、外部の方が、学校を訪問し、活動を行っていただくというのは、コロナ前と同じようにはできなかったと思っており、体力運動能力の向上についても、いろいろな制限がある中での活動であったので、多少は影響があったのかなと思っている。</p> <p>・それよりも、<u>指標は、年度ごとに目標値が上がっていったので、（評価が伸びなかった）影響が大きいのではないかと</u>思って見ていた。</p>	<p>・上記No.2のとおりであり、委員のご意見を踏まえて今後の点検評価や取組内容を検討する。</p>
4	- 全体	大野 会長	会議	<p>・確かにコロナの影響か、それ以外のことか、切り分けるのが難しいとは思いますが、<u>同じようなことが、今後も起こらないとは限らないので、その時により良い対応ができるように、コロナ禍の中でどういう対応をしたのかを一度振り返る作業が必要ではないかと思う。</u>その過程で、どこまで影響があって、この指標が伸びなかったのかとか、そういうことを量的に出すのは難しいと思うが、<u>分析する作業を行うべきだ</u>と思う。</p> <p>・また、<u>新型コロナ感染症の影響により実績値が伸びなかった指標に対する今後の取組を記載する欄が設けられたが、これは今後の取組なので、新しい計画の中で、どういうふうで反映されて具体的に取組まれるのかを、来年度の会議の中で評価する時に、しっかりと反映してほしい。</u></p> <p>・旧計画は、これで終わるのだが、新しい計画が始まるので、今後の取組として書かれてることは、新しい計画の中で具体的にどう取組んで進められたのか、そういう意味でPDCAサイクルが、<u>実質的に機能しているようにしてほしい。</u></p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響の検証について、コロナがある場合とない場合を単純に比較できないので、一般的な評価が困難であるが、委員のご意見を踏まえ、将来新たな感染症が起こった場合に、今回の経験（コロナ感染拡大によりGIGA スクール構想が進展するなど）を後世に生かせるように、検証したい。</p> <p>・この点検評価は、単年度の取組をPDCAサイクルで評価するという形であり、連続した複数年度の評価が見えにくいという課題があるが、来年度は、令和5年度から始まる新しい計画の下での評価となり、旧計画から引き継いでいるものもあることから、委員のご意見なども踏まえ、施策に取り組んでいくとともに、何らかの形で点検評価に反映できるよう検討する。</p>
5	- 全体	杉本 委員	会議	<p>・全体を見渡すとCで「進展あり」が非常に多い。各項目を良く見ていくと、dが一つでも付いてしまうとCになっちゃって、<u>dが多いものと、一つしかないもの、一つ二つ程度のものも様々あって、これを分けて考える必要がある</u>と思った。dの数が多きものは、子どもの学習や学力に関係するものが多く、それについては書面会議において、エビデンスに基づく教育課程の改善や、授業改善の必要性について意見提出したが、心強い回答いただき感謝する。</p> <p>・また、学校は、<u>年度ごとに重点項目とかがあり、年度によって取組に差が生じ、謙虚に評価を付ける学校もあると思うが、各学校の努力が見える化できるような評価のあり方を次の計画の評価の時には考えるべきだ</u>と思う。</p>	<p>・定性評価について、aやbがあっても、一つでもdがあるとCとなり、一番上の評価が付かないなど、評価方法には課題があることから、新計画の下での評価方法の案について、次回の推進会議等で説明し、議論いただく考え。</p> <p>・各学校の取組を吸い上げられるようにのご意見について、この点検評価は、各学校の取組を踏まえて、教育委員会の取組状況を評価するものであるが、日頃の学校の取組を丁寧に見ていくべきというご意見は、その通りであり、日頃から心がけていく必要がある。</p>

No.	関連項目	委員名	会議 or 書面	委員意見	担当課回答
6	- 全体	大野 会長	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・評価のことについて、一つでもdがあると評価が落ちるとか、厳しい部分もある一方で、定性評価を進展ありかなしかで、別途評価することになっており、定量評価が悪くても、定性的評価で進展ありとなると、評価が少し回復するような評価の仕方になっている。今の評価の考え方は、dが一つでもある場合は、早急に対応して、何とかしないと駄目だと、そういう意図もあったんだと思う。 ・それに対して有効な対応ができなかったとか、PDCAサイクルがうまく回せなかったとかでdのまま放置され、別のdが出てくるとか、あるdを片付けても別のdが出てくる状況があるとなかなか、良い評価が付いていかないが、そこをどう考えるかは、次期の会議で検討していただきたい。 ・ただ、あまり甘い評価つけると、うまくいってまずみたいな結果になるので、やはり教育であるから、全ての面で、子どもたちのために、良い結果を出す努力することが必要なので、その点はしっかりと考えてやっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、その結果に一喜一憂するのではなく、冷静に見て次の取組に活かしていくために行うべきものであり、次年度以降、適切な評価方法となるよう検討する。
7	6 キャリア教育の充実	朝倉 委員	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育のところが非常に気になっている。企業として、子どもたちが将来どんな仕事をしたいかとかどんな夢を持って生きていきたいかというところを小さい頃から教育していきたいなあと思っている。 ・コロナ禍において、企業からもインターンシップを断られたのがここ3年ぐらいだと思うが、この空白の3年間、子どもたちが目標を見失って成長していきたくないかと不安に思っている。そのあたりを地域の会社、企業に熱く伝えながら巻き込んでやっていかなければならないと思っている。 ・企業も普段の仕事で忙しく、簡単にキャリア教育に協力することは難しので、アプローチしても断られてしまうことが多いのかもしれないが、事務局の方がキャリア教育の重要性をしっかりと企業の方に伝えていただきたいと思う。 ・最近子供たちが何か簡単にお金を稼いでるとか、悪い道に行くだとか、そういう悲しいニュースも多いので、自分たちが生きる意味だったり、社会の役に立つ仕事をしていくのだからというところを少しずつ教育していくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員のご指摘のとおり、インターンシップの実施率が3年間低下しており、今年度は、14教育局に配置の「キャリアプランニングスーパーバイザー」が企業訪問する際に、学校と企業との連携に関する好事例等をリーフレットにまとめ、配布するなどして、企業に協力いただく予定であり、今後とも、一層、インターンシップ等が推進されるよう取り組む。
8	21 学校段階間の連携・接続の推進 22 本道の地域特性等を踏まえた特色ある高校づくり	久保 田 委員	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・当町には道立新十津川農業高校があり、現在、新しい校舎が建ちまして、夏休み明けから新校舎に生徒が入ることになり、感謝。そうした中、新十津川においては、高校の実習園に、小学校3年生がさつまいもの栽培の体験に来て、高校生が教えたり、あるいは、小学校5年生の実習田での田植えを、高校の先生が教え、収穫祭を行ったり、生産までの過程を小学校に報告したりしている。 ・また、新聞にも出ていたが、隣の雨竜の高等養護学校に雨竜の中学生が物づくりということで、訪問し、交流したりしており、私どもの町と隣町の高等学校についてはそういう特色ある活動に取り組んでいる面もあるということで、感じていることを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくりの一環で、学校間で連携したキャリア教育などの取組が行われている実態があり、幅広い分野であることから、担当課を含め、関係課が連携を図っていくことが必要。 ・また、特色ある学校づくりにおいては、地域資源を積極的に活用した教育活動や小・中・高が連携した教育活動を推進し、地域と一体となって魅力ある高校づくりを進めていくことが重要。
9	26 学校安全教育の充実	武田 委員	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の立場で感じたことを一点お話させていただく。今週、防災訓練があり、子ども引き取り訓練というもので学校に出向いたが、今年に関しては私は先生から認識されていたと思うが、去年に関しては、先生に、名前を言って、子どもが引き渡されるという感じであった。母親の顔を覚えてないかなという先生の反応がとても気になった。コロナ禍で学校と保護者との距離がとても開いてしまった印象を持った。 ・私、児童会館で働いていた時に、子どもを保護者に引き渡すという時、とても注意を払っていたので、緊張感を持って子供を引き渡すということに対して、学校側も配慮していただきたいと思う。今、ちょっと信じられないような事件がいろいろ起きているので、安全性のところをもっと取り組んでいただけたら保護者は安心して子どもを預けられると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課である生徒指導・学校安全課では、保護者への子どもの引き渡し訓練や、登下校の安全について、これまでも配慮事項等を通知してきたが、コロナ禍のこの2～3年で、教員が保護者の顔がよくわからない状況になってきたことも実態としてあると思われ、委員ご指摘な点は非常に大事なことで、道教委として、市町村教委を通じて各学校に周知徹底する考え。 ・現在、マスクをはずせる状況になってきていることから、教員が保護者の顔を認識しながら、子どもの引渡しを円滑に行うなどして、相互の信頼関係を築いていけるようにしていきたい。
10	7 産業教育の充実	中村 委員	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・直接、今回の点検評価ではなく、次の計画の話になるかもしれないが、キャリア教育や、理数教育に直接絡む話でもあるが、今、北海道で一番話題になっている、半導体の新しい工場のラピダスの人材を、北海道の中で、オールジャパンでもいいが、どのように供給できるかが一番の大きな問題と聞いている。 ・経産局が、人材育成のプラットフォームづくりということで大学、高専等を結集してやるっていう話だが、先日のラピダスの専務の講演中で一番印象的だったのは、小・中学校の時から半導体とか、ITなどに親しんでもらうことが行く行くは高等教育の人材づくりに極めて重要であり、先行している熊本の半導体工場では、小・中学校において、半導体の勉強会だとか、工場見学とか、そういうカリキュラムがスタートしているというお話であった。 ・北海道も、せっかくのチャンスなので、従来にない発想で、縦横、いろんな施策を総合的に打ち出して、成功に向けてバックアップすることが必要。幸い25年に、稼動スタートで本格大量生産は27年ということで、次期推進計画にぴったり合うので、そういう外部環境に適合させた具体的な施策、あるいは他府県等の事例等、新しい取組みも是非、次期計画に取り入れていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど、高校のキャリア教育のことが話題になったが、高校段階ではなく、さらに早い段階から将来就きたい仕事への思いや夢、憧れを持つ機会を与えていくことが大事。 ・千歳の半導体工場の立地は北海道の大きな目玉であり、千歳や石狩管内だけでなく、北海道全体の子どもたちが、興味や誇りを持てるよう、今後、道教委として何ができるのかを検討していく考え。